

## トランスジェンダーの生き難さについての実証研究 (研究の成果発表)

著者	藤森 雅人, 笹原 恵
雑誌名	発表予稿集 : 情報学シンポジウム
巻	2018
ページ	47
発行年	2018-12-22
出版者	情報学シンポジウム2018実行委員会
著者版フラグ	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00026641">http://hdl.handle.net/10297/00026641</a>

## トランスジェンダーの生き難さについての実証研究

藤森雅人（情報学専攻），笹原恵（大学院情報学領域）

トランスジェンダー（TG）とは，性別を越境しようとするあり方や人という意味であるが，日本では，この概念よりも「性同一性障害」（GID）がよく知られている．GIDは，自らの身体の性に強い違和がある人に対する「診断名」であり，これにより，身体の性を性自認と一致させるための「性別適合手術」（SRS）が可能となる．1998年に埼玉医科大学のSRSを契機に，2003年に「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」が成立している．同法では，戸籍上の性の変更の要件にSRSがあるため，身体の性別こそが社会的な性別という認識が支配的であり，身体の性別を変えることができない／変えない当事者や，SRSが可能ではない未成年の当事者の生き難さにつながっている．本研究では，TG当事者にインタビュー調査を通して，このような当事者の生き難さを明らかにするものである．